

令和5年度 こども園評価書

堺市立英彰こども園

教育・保育理念

- ・自分も友だちも大切にすることの育成
- ・学びの芽の育成
- ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成

園の重点項目

- ・子どもが、安心して過ごせる環境の中で主体的に遊び、人とかかわる中で、自分も人も大事にできる心を育てる(①・②・③・④・⑤)

令和5年度 重点内容

1. 遊びや生活を通して主体性や自尊感情を育む
2. しなやかな体作りと豊かな表現活動から心と体を育てる
3. こ・保・小や地域との連携・つながりを持ち、学びや育ちをつなぐ
4. 保護者や家庭の状況を把握し、子どもの育ちを共有する
5. 職員の資質向上をめざす

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価	
遊びや自尊感情を育てる主体	・自主性や意欲を大切に、興味や関心がわくような遊びや生活の保障及び導入の工夫 ・子どもの発達に応じて活動が理解できる手立てや内容の工夫	・子どもたちの現状をしっかりと把握したうえで遊びの環境を構成する 「やりたい」という思いが「実現した」と実感できるような導入や取り組み方法を考え教材準備をおこなう ・楽しかったことを友だちと共有し「またしよう!」という思いを次につないで遊びを終える	A A B	A A B A B A A	A A B A B A A
	・友だちとの関わりをくぐる中で自己肯定感を感じられる仲間づくりやクラス運営を行う	・ねらいに応じて、子ども同士が関わりを持ちやすい環境やグループ等の構成をする ・発達に応じた伝え方で自分の思いを表現することの大切さを感じさせていく	A B		
	・他クラスとの活動や異年齢交流を通して、相手の気持ちを知り、考えて関わること、関わってもらえたことの嬉しさを体験し、心を豊かにしていく	・年齢発達幅がある中での活動であることを考慮し、生活や遊びを自然な形で取り組めるように環境構成等おこない、子ども一人一人の良さが見られるようにする ・年齢の違う友だちとの関わり心地よさを感じられるようにする	A A		
	・子どもの興味や関心、発達に応じて友だちと一緒に全身を使って遊び、体を使って遊ぶ楽しさを知る	・自然環境や社会環境を子どもたちが体で感じ取ることができるような場面設定を考える ・感じたことをその場で身振りや言葉で表現できる場を設定し、友だちと共有し楽しめるようにする ・楽しかったことを描画・歌・リズム楽器・制作・運動あそびなど多様な表現活動に展開する	A A B		
豊かな表現活動を行う	・実体験を基盤に自分の思いを表現したり、友だちと一緒にイメージを膨らませて遊ぶ経験を通して、豊かな表現につなげていく	・日々の実体験を基にした遊びの充実により、絵本やお話のイメージの共有につなげる ・行事の取り組みは、子ども同士が支え合って作り上げた達成感を感じられるように進める ・長期に取り組む教材は職員間で教材分析を行い子どもたちと読み取りが深まるような教材を選ぶ	A A B	A A B A A B A B	A A B A A B A B
	・4園交流や小学校との計画的な教育・保育の交流と担任間の交流 ・行事の交流や授業見学や防災訓練等の協力を図る	・地域の教育保育施設の情報を職員間で共有し交流等を通して教育保育の質の向上につなげる ・小学校訪問や校庭使用、災害時を想定した避難訓練などを通して円滑な接続につなげる	B B		
	・地域防災訓練やきりぎりす教室等、地域活動への職員の積極的参加と園庭開放、育児講座、各教室等子育て支援の発信 ・地域会館の方や地元のみん太鼓や地域にある店舗訪問等を通して子どもたちが地域の方に交わられていることを実感できるようにする	・地域の取り組みに参加し、地域の方とのコミュニケーションを図る ・園の機能を発揮して地域のニーズを理解したうえで子育て支援をおこなう ・お店ごっこの見学やふんと太鼓の見学等地域の方との交流から地域に支えてもらい育っていることを実感できるよう保護者や地域にフォトニュース等で伝えていく	B B B		
	・散歩や公共施設・公園などを利用することを通して『堺』という街を知るとする	・園周辺の公園や様々な施設等豊かな環境を発達に応じた活動を通して『堺』に関心が持てるようにする	B		
保護者や家庭の状況を把握し、一緒に考えながら子育てしていく関係作りを進める	・保護者や家庭の状況を巡回時や個人懇談などを通して把握し、一緒に考えながら子育てしていく関係作りを進める	・子どもたちの育ちを把握するとともに多国籍など様々な環境下で生活している子どもや保護者に寄り添った子育て支援や発達支援をおこない信頼関係を築いていく	A	A A	A A
	・日々の教育・保育内容が誰もがわかるような工夫を(フォトニュースやスライドショー、お便りにふりがなや多言語訳)の明示に努める	・日々の教育保育内容に興味関心が持てるような形での発信をおこなったり、コミュニケーションを図りながら保護者のニーズや思いを理解し子どもの育ちに関心を持ってもらえるようにする	A		
職員の資質向上	・年齢の教育保育内容の一貫性と年齢間の連続性について、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の力とともに検証する	・チームアップ研修や園内研修を主体的に取り組む質の向上を図る ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についてこれまでの積み重ねを整理し専門性を高める	A B	A A B A	A A B A
	・園内の公開保育を実施し、教育保育の基盤となる人間関係についての学びを深める	・公開保育に積極的に取り組み、学ぶ視点を明確にする ・人間関係に重点を置いた意見交流をおこない、集団の視点で教育・保育の具体的な実践を学びあう	B B		
	・子どもの育ちを共有していくために、保護者に応じた対応を心掛け日々話をし信頼関係を築いてきました。特に外国にルーツのある保護者には、翻訳機を使ったり写真や絵で表示したり、お便りを翻訳することで伝えてきました。	・子どもの育ちを共有していくために、保護者に応じた対応を心掛け日々話をし信頼関係を築いてきました。特に外国にルーツのある保護者には、翻訳機を使ったり写真や絵で表示したり、お便りを翻訳することで伝えてきました。	A		
	・日々の活動は誰もがイメージできるようにフォトニュースなどを作成して伝えてきました。	・日々の活動は誰もがイメージできるようにフォトニュースなどを作成して伝えてきました。	A		

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
子ども主体の環境を通じた教育・保育を実践する。	「やってみたい」「これってなぜだろう」という意欲や探求心を育み、「あれこれ試してみできた」と粘り強く取り組み、達成感を体験できる環境づくりを職員間で学び合い、実践を通して子ども主体の教育・保育を実施していく。
保育教諭や友だちと様々な活動を通して一緒に取り組む喜びや楽しさを味わい、一人一人の自信に繋げる。	保育教諭に自分の思いを受け止めてもらい、安心して過ごす中で、自分の思いを伝えたり友だちの思いを聞いたりすることを繰り返して体験できるようにしていく。また、友だちと生活や遊びを一緒に取り組む経験を通して、喜びや楽しさを味わい子ども一人一人が自信が持てるようにしていく。

- 評価の基準
- A・・・達成している
  - B・・・おおむね達成している
  - C・・・取り組みが不十分である

園長より

日々の制限がなくなり、子どもたちの生活や遊びに様々な経験ができるようになった今年は、「子どもの今」を大切に考え、一人一人に応じた手だてを考え進めてきました。これらの取り組みから子どもたちは見通しを持ち、自分らしく表現する姿が多く見られます。この育ちがより豊かになるよう次年度へ繋いでいきたいと考えています。保護者の皆様、園運営にご理解いただきありがとうございます。